



Title	Studies on the chloroplast homologue of signal recognition particle receptor protein cpFtsY : Its roles in protein targeting to thylakoids and chloroplast biogenesis
Author(s)	朝倉, 由香里
Citation	大阪大学, 2004, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/45079
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed 大阪大学の博士論文について ご参照ください 。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏 名	あさ くら ゆ か り 朝 倉 由 香 里
博士の専攻分野の名称	博 士 (理 学)
学 位 記 番 号	第 1 8 4 1 4 号
学 位 授 与 年 月 日	平成 16 年 3 月 25 日
学 位 授 与 の 要 件	学位規則第 4 条第 1 項該当 理学研究科生物科学専攻
学 位 論 文 名	Studies on the chloroplast homologue of signal recognition particle receptor protein cpFtsY : Its roles in protein targeting to thylakoids and chloroplast biogenesis (葉緑体におけるチラコイド膜への蛋白質輸送に関与する cpFtsY の解析)
論 文 審 査 委 員	(主査) 教 授 長谷 俊治 (副査) 教 授 寺島 一郎 教 授 金澤 浩 助教授 中井 正人

論 文 内 容 の 要 旨

〈序〉

葉緑体のチラコイド膜への蛋白質輸送経路には、必要なエネルギーとストロマ因子が異なる 4 種類の輸送経路が知られている。中でも集光性クロロフィル a/b 結合蛋白質 (LHCP) 等の挿入に関与する SRP (シグナル認識粒子) 依存性経路に関わるコンポーネントとしては、cpSRP43、cpSRP54、SRP レセプターの cpFtsY および ALB3 が同定されているが、各蛋白質の機能の詳細は明らかではない。本研究ではトウモロコシを材料に、cpFtsY がチラコイド膜への蛋白質輸送及び葉緑体のバイオジェネシスにおいてどのような役割を担っているのかを明らかにすることを目的として、トウモロコシ変異株を用いた解析を行った。

〈結果および考察〉

cpFtsY の遺伝子座の異なる部位に挿入変異を有する 2 個の *csr1-1*、*csr1-3* (*chloroplast SRP receptor 1*) を用いて解析を行った。トランジット配列に相当するエキソンに挿入変異を有する *csr1-1* 変異株では、cpFtsY が全く発現しておらず、葉は黄緑色を呈した。一方、イントロンに *Mu* の挿入のある *csr1-3* 変異株は、cpFtsY がわずかに発現しており、葉は薄緑色を呈した。両変異株は劣性で、ホモ接合体は従属栄養期が終わる播種後 2 週間で枯死した。電子顕微鏡を用いた観察により、変異株の葉緑体は、葉肉細胞においてはチラコイド膜のスタックが著しく減少し、維管束鞘細胞においては、チラコイド膜とともに澱粉粒の減少が観察された。一方、暗黒下で生育させた *csr1-1* 変異株のエチオプラストではプロラメラボディ構造は正常に見えたが、そこからのびる膜 (pro-thylakoid 膜) の長さが野生株と比較して短く、チラコイド膜の形成が阻害されていることが推察された。

SRP 経路で輸送されると考えられる LHCP 蛋白質群についてウエスタン解析を行なったところ、変異株においてその存在量は顕著に減少していたが、cpFtsY が全く発現していない *csr1-1* においても野生株の 30% 以上発現している LHCP が有り、cpFtsY を介さない LHCP の輸送経路が存在すること、また LHCP の種類によりその依存性が異なることが推察された。変異株の LHCP の減少が、cpFtsY の欠損によるチラコイド膜への挿入阻害である事を確認するため、変異株から単離した葉緑体への LHCP の輸送実験を行った。変異株の葉緑体への輸送は野生株と同程度であったが、チラコイド膜への挿入が顕著に減少しており、一部ストロマへの蓄積も観察された。この事は、変異株に

において確かに LHCP のチラコイド膜挿入過程に defect が生じている事を示している。

光合成に関わる様々なチラコイド膜蛋白質のウェスタン解析を行ったところ、変異株において有意な減少が確認された。また変異株の葉緑体を Blue native 電気泳動法により分離すると、チラコイド膜に存在する多くの光化学系の膜蛋白質複合体が減少しており、葉緑体の光合成装置に多面的な defect が生じていることが示唆された。一方、cpFtsY 以外のチラコイド膜への蛋白質輸送に関わるコンポーネントは変異株においても野生株と同程度存在していた。また、変異株においてストロマのシャペロン類やチラコイド膜のプロテアーゼのウェスタン解析を行ったところ、変異株において有意に増加していた。これはチラコイド膜へ挿入されずにストロマに蓄積した蛋白質やチラコイド膜に結合したものの複合体を形成できなかったチラコイド膜蛋白質等の分解に働いていると考えている。

論文審査の結果の要旨

本論文は、高等植物葉緑体に存在するシグナル粒子受容体蛋白質である cpFtsY の生化学的解析と、その遺伝子を欠損したシロイヌナズナ変異体植物の表現型の解析を系統的に行い、本蛋白質の生理的重要性を解明したものである。朝倉由香里君は、cpFtsY は葉緑体のチラコイド膜や黄色体のプロラメラ体に表在し、この蛋白質が欠損することによりチラコイド膜の光化学系やその周辺の蛋白質群に顕著な減少が起こること、一方 cpFtsY 以外の輸送装置の蛋白質は不変であることを見出した。そして cpFtsY 蛋白質欠損葉緑体を用いた LHCP の輸送実験によりチラコイド膜への挿入過程に異常が起こることを突き止めた。これらの結果は葉緑体の生合成機構に新たな知見をもたらしたものであり、本論文は博士（理学）の学位論文として十分価値あるものと認める。